

資料4

新型コロナウイルス感染防止対応に係る状況について(地域包括支援センター)
令和2年6月30日から7月7日の期間で実施し、各包括からの回答内容を集約。

Q1 緊急事態宣言発令中の状況について		
Q1-1	通常の勤務態勢からの変更点(在宅勤務の状況等)	<ul style="list-style-type: none"> ●事業所内の密を避けるため、在宅勤務、時差出勤、有休の活用等、シフトの調整を行うことで、1日の出勤人数を減らすように調整している。 ●分散勤務が行える環境の包括は、通常時に在席している部屋以外の部屋や法人施設の活用により分散勤務している。 ●包括によっては、職員間の情報共有も電話、FAX、ラインワークス等接触しない方法もとられていた。
Q1-2	総合相談の主な内容(多かった相談内容)	<ul style="list-style-type: none"> ●介護保険認定申請の相談が主な相談内容である包括が多かった。 ●別居の家族による支援が減ったことで、安否確認等の相談が増えた包括もあった。 ●医療機関への入院退院時の相談や情報共有、退院後のサービス調整の依頼に対応している。
Q1-3	地域や自主グループ等からの主な問い合わせ内容(多かった問い合わせの内容)	<ul style="list-style-type: none"> ●他の自主グループの活動や中止の状況が知りたいという問い合わせがあることから、緊急事態宣言下においても、自主グループの開催判断、開催方法、中止の判断等について気にされていた地域の方々がいる。
Q1-4	地域の高齢者の状況	<ul style="list-style-type: none"> ●外出自粛を行いながらも、個人レベルで散歩や体操を行う方も多くみられた。 ●外出自粛により、他者との関わりが低下し、精神的に不安定となった方や認知機能が低下した方がいる。また、身体機能低下により、新たにサービス利用を開始した方がいる一方、これまで利用していたサービスを中止することで、身体機能が低下した方もいる。
Q1-5	来所相談者への感染予防対応	<ul style="list-style-type: none"> ●マスクの着用と本人へのマスク着用依頼 ●検温の実施 ●体調の確認 ●手指や物品のアルコール消毒 ●短時間での相談対応 ●なるべく電話で相談いただきたい旨の張り紙を玄関に掲示 ●アクリル板越しの相談 ●入口付近での対応
Q1-6	訪問時の感染予防対応	<ul style="list-style-type: none"> ●訪問前に本人や家族の体調を電話で確認 ●消毒薬等物品の携帯 ●マスクの着用と本人へのマスク着用依頼 ●訪問前後の手指及び物品のアルコール消毒 ●訪問時間の短縮 ●手洗い・うがい ●訪問以外の対応を検討 ●フェイスシールドやゴーグルの活用 ●玄関先での対応
Q1-7	相談や訪問時に苦慮した点	<ul style="list-style-type: none"> ●マスクをしていることで、お互いに声が聞き取りにくい、表情や口の動きが分かりにくかった。 ●体調不良であることについての相談時に、訪問するべきかの判断に苦慮した。 ●発熱がある方の受診先や救急搬送先が見つからずに苦慮した。 ●マスクを着用せずに来所相談する方がいた。
Q1-8	各関係機関との連携の有無(右記のどちらかの口を■にして下さい)	<input type="checkbox"/> 有(→ Q1-9 へ) 有 7包括 <input type="checkbox"/> 無(→ Q1-10 へ) 無 2包括
Q1-9	各関係機関との連携の内容	<ul style="list-style-type: none"> ●通常時から連携している関係機関と連携している。 ●受診や入院支援の為に、医療機関や保健所と連携したり、生活困窮者の支援の為に、川越市自立相談支援センターと連携するなど、待ったなしの状況において、各関係機関と連携して対応していた。

Q2 緊急事態宣言解除後の状況について		
Q2-1	勤務態勢の状況 (右記のどちらかの口を■にして下さい)	<input type="checkbox"/> 通常通りに戻った(→ Q2-3 へ) 3包括 <input type="checkbox"/> 勤務態勢の変更を継続している(→ Q2-2 へ) 6包括
Q2-2	現在の勤務の態勢	●通常の勤務態勢に戻りつつある中で、緊急事態宣言発令中ほどではないが、在宅勤務、時差出勤、有休の活用等、シフトの調整を行うことで、事業所内が密な状況とならないように、引き続き調整している。
Q2-3	総合相談の主な内容(多かった相談内容)	●緊急事態宣言発令中と内容に大きな変化はなく、介護保険認定申請の相談が主な相談内容である包括が多かった。 ●新規相談が増加した包括もある ●安否確認依頼や地域からの情報提供によって支援が開始となる事例が増えている包括もある。
Q2-4	地域や自主グループ等からの主な問い合わせ内容(多かった問い合わせの内容)	●自主グループやオレンジカフェの再開時期や方法についての相談
Q2-5	その他	●予防事業実施(集団向け)が行えない中、個別相談、地域分析、今後の活動に向けての内容について、包括内で検討していきたい。職員がそのことについて、積極的に情報、知識を収集し活動に結び付けていけるようにしたい。 ●ラジオ体操は6月9日より再開。活動再開のチェックリストで確認し、開始前に参加者にTELにて感染予防と参加のしかたについて連絡をした。参加者名簿の提出、密にならないよう、また日差しが強い日は熱中症にならないように、屋外駐車場と、屋内の1階ホールを開放した。 ●解除後、SSWから「みんなの食堂」準備再開への協力要請があり、当包括にて、SSW、自立、障害、社協、民協、地元社福有志に包括も加わり、実行委員会がつくられた。 ●インターネットやQRコードなどから運動などの情報を活用できることを勧めるが、ほとんどの住民から、一人ではやりたくないし、みんなで集まってやるのが楽しいと、IT活用に消極的だった。 ●「近くまで来たから」と急に来所された方があり、丁寧な対応や説明に配慮が必要だった。